

## 2. 各教科の課題と解決のための具体的方策

【第1学年】

	課 題	課題解決のための具体的方策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な力は持っているが、応用力に欠ける。</li> <li>・論理的思考が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書をただ読むだけでなく、そこから何が考えられるのか指導していく。</li> <li>・説明的文章の組み立てをじっくり考えさせたり、文法学習に力を入れ、論理的思考を養う。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習において、集中して課題に取り組める生徒と、取り組めない生徒の差が激しい。</li> <li>・歴史的用語の漢字を正しく書くことが出来ない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習においては、課題を出来るだけ取り組みやすい簡潔なものにし、学習意欲の高い生徒にも発展的な課題を用意しておく。</li> <li>・難しい漢字は、板書時に字を大きく書いたり、ふりがなをふる。また、授業の中で復習プリントなどで用語を書く機会を増やす。</li> </ul>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲は高いが、授業中の勉強で終わり、家庭学習で復習することがないので学力として定着ができてない。</li> <li>・長い数式や文章問題になると見ただけで解くことをあきらめてしまう生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎計算の小テストで反復練習をし、計算力を付ける。</li> <li>・習熟度別学習と少人数学習の形態を取り入れ、個々に対しての指導時間を十分にとり定着を図る。</li> <li>・家庭で学習する習慣を付けるため、簡単な問題の課題を毎時間与える。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業を好奇心を持って受け取り関心、意欲も高い。そのためより深い思考を求める授業展開ができる。</li> <li>・言われたことはうまくできるが、自ら考えて工夫する力がまだ弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味を引き出せる導入を行い、基本的なことを繰り返し説明する。</li> <li>・生徒の興味・関心を引き出すような実験、観察を多く行い理科のおもしろさへとつなげ、どうして？と考えられる授業を行う。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱・合唱・器楽などの演奏活動に対して意欲的な生徒が多い。他の声部を聴いて歌うということは難しい。また、頭声的な発声ができている。音程をとることが難しい生徒も男子に半分くらいいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の際、発声を取り入れ、頭声的な声を出すことに慣れさせる。また、鑑賞を通して聴く観点を指示し、歌うときや演奏するときにそれを活かせるようにする。</li> <li>・音程を取れる生徒の隣に音程を取ることが難しい生徒を並ばせ、隣に行き、アドバイスをする。</li> </ul>
美 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での図工は苦手だったと感じる生徒が多かったが、積極的に授業に取り組もうとしている。基礎的な技能を身につけさせながら作品への応用力を高め、表現する楽しさを味わわせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な表現技法や美術の知識に関心が持てるように、身近な生活と関連させた指導を工夫する。</li> <li>・具体的でわかりやすい練習を積み上げて、基礎的な技能が身につけられるようにする。</li> <li>・生徒の発想や特性が生かせるように助言して、作品を作り上げる喜びや表現する楽しさが味わえるようにする。</li> </ul>
保 健 体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対する意欲や基礎的な技能の定着に関して、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の明確化、および個々の能力に応じた支援の仕方の工夫・改善を図る。</li> <li>・単元を通して、「習得」→「活用」という流れを仕組み、達成感や充実感を味わわせる。</li> <li>・学習カードの工夫・改善を図る。</li> </ul>
技 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対して意欲・関心をもっている生徒が多い。</li> <li>・基礎・基本的なこと（製図を書く）には、よく努力しているが、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に目標を持たせ、時間を十分にとり、巡回指導を行い基礎的な技術を身につけさせる。</li> <li>・道具、工具の安全な取り扱いなどを教え、木工作品を作り完成の喜びなどを体験させる。</li> <li>・作業の遅れている生徒は、昼休み、放課後などを利用して行う。</li> </ul>

<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には意欲的に取り組み、活気もあるが集中力が持続できないことがある。</li> <li>・授業中の学習で終わってしまい、復習することがないので 定着につながらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れを明確にし、作業に時間制限をつけるなどしてメリハリをつける。</li> <li>・簡単な課題を与え、家庭学習と学力・技術の定着をはかる</li> </ul>
<p>英語</p>	<p><b>Listening</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結に慣れさせると共に、分かる単語から概要を類推する力を育成していく必要がある。</li> </ul> <p><b>Speaking</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としては積極的にとりくんでいるが、苦手としている生徒が数名いる</li> </ul> <p><b>Reading</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字と音が一致していない生徒もいる。</li> </ul> <p><b>Writing</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や基本文などを音から文字への移行は比較的できている生徒が多いが正確さが足りない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結指導と類推して理解していくリスニング指導を充実させる。</li> <li>・ALTを活用して言語活動を充実させる。</li> <li>・細切れにペアワークで活動する時間を取る。</li> <li>・基本文を覚え、自由に使えるように練習をする。</li> <li>・比較的苦手な子ども達にローマ字指導、フォニックスの指導をする。</li> <li>・単語や基本文がスムーズに読めるための練習を充実させ、スペルを書ける段階に近づける。</li> <li>・スペルコンテストなどを活用して書ける語彙力を付ける。</li> </ul>

## 2. 各教科の課題と解決のための具体的方策 【第2学年】

	課 題	課題解決のための具体的方策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言できない。 (人前での表現が苦手)</li> <li>・作業が雑。</li> <li>・理解力はあるが、やったことが身につかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは授業の雰囲気作り。発言しやすい環境を作る。また、人の意見をきちんと聞ける雰囲気を作る。自ら進んで学ぼうとしないと力にならないことも指導していく。</li> <li>・丁寧に物事に取り組むことを指導する。</li> <li>・家庭学習の大切さを説いていく。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中力は高いが、受け身になりがちで積極的に発言できる生徒が少ない。</li> <li>・用語を覚えることは出来るが原因や理由などの文章問題を苦手としている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、講義だけではなく事柄がなぜそうなったかと考える必要がある発問を多く投げかける事によって 能動的に考える力を養う。</li> <li>・授業の中で文章を考える小テストなどを行い、文章を作る練習をする。</li> </ul>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対しての意欲が高く、質問に対しても積極的に答える生徒が多い。そのため、基礎知識はついている。しかし、応用問題になると文章を読み、それを数学的な思考にすることができない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎計算の小テストで反復練習をし、計算力を付ける。</li> <li>・単元終了ごとに単元テストを行い、内容の定着を図り、次へつなげていく。</li> <li>・問題集を活用して、多くの問題を解き「表現・処理」の能力を高めていく。</li> <li>・1つの問題の解き方を数人に発表させ、それを聞くことで「見方・考え方」の力を付けていく。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の授業を好奇心を持って受け取り関心、意欲も高い。しかし、発表したり、レポートを作成したりする表現力をつけたい。</li> <li>・実験も丁寧に正確にできるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後の考えさせる時間をつくる(予想)。 実験後の考察の時間をつくる(考察)。 レポート作成のマニュアルをつくり時間をかけて、作成させる。</li> <li>・生徒の興味・関心を引き出すような実験、観察を多く行い理科のおもしろさへとつなげられる授業を行う。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、合唱、器楽などの演奏活動に意欲的である。しかし、積極性に欠けるので、表現の工夫をするということが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生合同を取り入れることにより、1年生に教えることで自信を持たせる。</li> <li>・表現の工夫を自らできるように、録音をしたりして、客観的に自分たちの声を聴く。</li> </ul>
美 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は意欲的に取り組み、具体的に指示したことは適切にこなせるが、自ら発想して作品の表現に結びつける力が不十分である。</li> <li>・話の内容はよく理解し、1年次よりは積極的になってきたが、発言者が限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのイメージが展開できるように、具体的な作例を準備し、テーマの設定や発想のヒントが多く例示できるようにする。</li> <li>・発想や表現のよい生徒の作品を取り上げて、他の工夫を発見したり意欲が高めあえるような鑑賞の時間を設定する。</li> <li>・授業中の指名方法や授業レポートの改善を図り、言語による発表力が高められるようにする。</li> </ul>
保 健 体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね意欲的にスポーツ活動に 取り組むことができるが、自他の課題を見つけたら、解決 策を選択したり自ら考えたりするなど思考力・判断力が不十分である。</li> <li>・保健分野の内容について、自分の生活と関連させながら思考する力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の課題について気付いたことを文章にまとめる、言葉で伝える、解決策を選択する、グループで一緒に考え工夫するなどの学習活動ができるように学習カードの工夫・改善および、「習得」→「活用」 →「探求」という学習過程を仕組む。</li> <li>・体験的な学習を多く取り入れることで、具体的な事象から実生活との関係をイメージしやすいように工夫する。</li> </ul>
技 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作の作業においては、よく頑張っているが、創意・工夫する能力の低い生徒が目立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に目標を持たせ、興味・関心が得られる教材を選定し、できるだけ分かりやすく、時間を十分にとって、基礎的な技術を身につけさせる。そして、道具、工具などの安全な取り扱いを教え、身近な教材の製作を通して、完成の喜びなどを体験させる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して、いろいろ工夫することによって、製作や生活が楽しくなることを教えていく。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中力はあるが、発表する力は弱い</li> <li>・学んだ事を実生活と結び付け、実践する能力は低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークをとりいれ、まず小さいグループで発表できるようにする。</li> <li>・生活経験が つめるような、適度な課題を与える。</li> </ul>
英語	<p><b>Listening</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結に慣れさせると共に、分かる単語から概要を類推する力を育成していく必要がある。</li> </ul> <p><b>Speaking</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に間違いを気にして消極的になりがちである。</li> </ul> <p><b>Reading</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が内容のおおまかな意味はつかめているが、やはり類推して概要をつかむ訓練が不足しがちである。</li> </ul> <p><b>Writing</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の理解が早いですが、表現することに苦手な傾向があり、文章が書けない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結指導と類推して理解していくリスニング指導を充実させる。</li> <li>・ALTを活用して言語活動を充実させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアーワーク活動時間を細切れに取るようにする。</li> <li>・基本文を覚え、練習時間を増やしていく。</li> <li>・補助プリントを活用する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習構文や単語を使って身近で興味のあるリーディング教材を作って活用していく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスンごとに表現する機会を設けていく。</li> </ul>

## 2. 各教科の課題と解決のための具体的方策

【第3学年】

	課 題	課題解決のための具体的方策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に取り組む姿勢に差がある。</li> <li>・作文力が弱い。</li> <li>・基本的な内容が身につけていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もがわかる授業を心がけ、学ぶ喜びを味わわせる。</li> <li>・作文の時間を意欲的に設け、反復練習をすることで、書くことに慣れさせる。</li> <li>・毎時間の漢字学習、ことあるごとに復習の時間を設け、基本を徹底させていく。</li> </ul>
社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲が低く、板書を写したり、課題に取り組めない生徒がいる。</li> <li>・難しい内容になると学習意欲が著しく低下してしまう生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の見通しを持てるプリントを作成し、少しずつ板書を写す習慣をつけさせる。</li> <li>・できるだけ身近な話題を取り上げ、生徒が関心のもてる工夫をする。ビデオ教材などを使い、生徒が難しい事柄に取り組みやすいようにする。</li> </ul>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則計算において、分数の計算を苦手とする生徒がいる。</li> <li>・学習に対しての意欲と学力に差があり、一斉授業では内容の定着は難しい</li> <li>・授業で説明に時間をとられ、問題を解く時間が足りない時がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別学習と少人数学習の形態を取り入れ、個々に対しての指導時間を十分にとり定着を図る。</li> <li>・放課後の時間を利用して、質問のある生徒の指導にあたる</li> <li>・問題の解き方のポイントを押さえ、指導にあたることと個々の考え方や解き方を把握し、個々に対してヒントを与えるようにしていく。</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験等には積極的であるが、説明しているとき集中して聞けるときとそうでないときがある。そのため、学習内容の定着が不十分である。</li> <li>・なぜそうなるかといった科学的な思考を伸ばせるところまで至っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味を引き出せる導入を行い、基本的なことを繰り返し説明する。小テストなどで反復学習することで知識の定着を図ったり、放課後補充学習を行う。</li> <li>・生徒の興味・関心を引き出すような映像や写真を多く取り入れる。発表(スピーチ)する機会を増やしたり、レポートを提出させるなど自分の意見を表現させる。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や合唱、器楽において、意欲的に活動する生徒が少ない。また男子の半分くらいが音程を正しくとることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成感を多く味わわせるために、易しい曲を歌わせ、自信を持たせる。</li> <li>・音程を取れる生徒の隣に音程を取ることが難しい生徒を並ばせ、隣に行き、アドバイスをする。</li> </ul>
美 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作活動には概ね意欲的に取り組むが、自発的に学習内容を応用したり、表現を工夫する力が足りない生徒が多い。</li> <li>・作品の構想に時間がかかり、予定までに作品を完成させられない生徒が一部いる。</li> <li>・定期考査に向けた学習が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技法は制作前に練習し、また、作例を示して様々な表現効果の違いを感じ取り、自分の表現意図に応じて活用できるようにする。</li> <li>・作品のイメージが具体的に把握できるように、作品鑑賞を充実させ、個別に助言しながら自分なりのテーマを明確にして制作に取り組ませる。</li> <li>・毎時の授業で作業目標や達成度を確認し、授業レポートの記入を徹底して、計画的な制作態度や自己管理能力が身につけられるようにする。</li> <li>・定期考査前のまとめ学習の取り組みを改善する。</li> </ul>
保 健 体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的技能や本校での保健体育授業の学び方は概ね身に付いており、意欲的にスポーツ活動に取り組むことができるが、自分たちで課題を見つかけたり、練習を工夫したりする、思考力やより深い楽しさを追求しようとす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで行ってきたグループ学習や、カード学習のより一層の充実を図るとともに、単元の中に自己評価や他者評価を行う場面を積極的に設け、互いに学び合い、高め合う授業を構築する。</li> <li>・これまで習得してきた「技能」や「学び方」を主体的に発揮できるよう、学習過程の工夫、改善を図る。</li> </ul>

育	<p>る探求心等に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健分野の内容について、自分の生活と関連させながら思考する力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習を多く取り入れることで、具体的な事象から実生活との関係をイメージしやすいように工夫する。</li> </ul>
技 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対しては、意欲・関心の高い生徒と低い生徒との差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に目標を持たせ、興味・関心・意欲が得られるような教材を選定し、分りやすく指導する。</li> <li>・工具、機械の安全な使い方を指導し、自主的に製作させ、完成の喜びなどを体験させる。</li> <li>・作業の遅れている生徒は、昼休み、放課後などを利用して行う。</li> </ul>
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対して意欲が高い生徒とそうでない生徒の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究をして、小さな達成度を与えられるような課題を設定する。授業の際にパワーポイントなどを使い、視覚的にもメリハリをもたせるようにする。</li> </ul>
英 語	<p><b>Listening</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力不足と構文を理解する力が不足している。音の連結に慣れていない生徒が多い。</li> </ul> <p><b>Speaking</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できないという思い込みから消極的になりがちである。</li> </ul> <p><b>Reading</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力、文法知識などの力不足から、理解できていない生徒もいる。</li> </ul> <p><b>Writing</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙や文法のつまづきから英文が書けない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の連結指導と類推して理解していくリスニング指導を充実させる。</li> <li>・A L Tを活用して言語活動を充実させる。</li> <li>・ペアーワーク活動時間を細切れに取るようにする。</li> <li>・できた！という実感の場を多く設定する。</li> <li>・補助プリントを活用して、語彙力や文法知識を育成し、読解力の基礎を育成する。</li> <li>・身近で興味のあるリーディング教材を活用していく。</li> <li>・レッスン毎の単語・構文テストやスペルコンテストを活用し、語彙力・構文力を付ける。</li> <li>・型を使って自分の考えを書く練習を増やしていく。</li> </ul>